

伝える「物流出前授業」と交通安全教室を開催した。交通安全教室はスタントマンが交通事故を再現するスケアードストリート方式で実施。同校の全校生徒378人が受講した。同協会交通環境委員会担当の三原輝美副会



出前授業の実施にあたり、三原運輸商事(三原輝美社長、相模原市)、西脇輸送産業(西脇大志社長、同市)の2社が車両を提供、体験乗車が行われた。



試乗や操作をしても、運送業界のイメージアップに努め、スタッフとして大

わが社の  
**NEW! HOPE**

サイショウ・エクスプレス

吉川浩一さん マルチな運転手めざす



吉川さん

場になって改めて、物流が生活に不可欠で重要な役割を果たしていることに気が付いた」と吉川さんは語る。EC事業が普及し、届くことが当たり前と思われ

る世代だが、それはすべてドライバーによって支えられており、配送が決して当たり前ではないことを、身をもって実感したという。

そして、転職サイトで同社を見つけ、健康経営というものがあることを初めて知った吉川さんは、「ここなら長く働けそうだな」と思い、転職に踏み切った」と話す。同社の健康経営の取り組みはもちろんのこと、

この仕事が好きだという吉川さんは、「どんな荷物でも、完璧に対応できるマルチなドライバーになりたい」と今後の抱負を語っている。

【東京】「社会の基盤を担っている誇りと責任を実感している」と話すのは、催事・建築関係の運搬を主に手掛けるサイショウ・エクスプレス(齋藤敦士社長、江東区)で働く27歳の若手ドライバー、吉川浩一さんだ。「自分が貨物を運ぶ立

し3年と3か月が経つ吉川さんが経つ吉川さん。そもそもドライバーを目指したのは、前職の空港勤務で出会ったドライバーから、仕事について色々話を聞いたことがきっかけだった。運んでいた荷物内容など、業界話を話し、「スポット配送なので

現在吉川さんは独り暮らしで、休日は掃除に洗濯、買い物に忙しく、さらに料理好きで、ネットを見ながら色々なメニューに挑戦しているという。ツーリングも趣味で、充実した休日をおとしている。

【神(出島)健康診本社重定や採問診な設けら場には置され今同送(相

【工藤修(北海道上研修セン会を開修の第2弾

【産